

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700057		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	風の里 グループホーム		
所在地	福岡県北九州市八幡西区里中2丁目17番13号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果確定日	平成23年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風の里グループホームでは、「納得・共存・勇気」の理念のもと、ご利用者が、ご自分らしく、好きなペースで暮らしていただけることを第一に考えています。時には笑い、時には怒り、時には泣く、という自由な感情表現が許されている場でありたいと思っています。

また、「人はこういうものだ、こうあるべきだ」とか「介護はこうするものだ」という既成概念にとらわれず、お一人お一人が快適に暮らしていただくために、様々な工夫を行い、柔軟な対応をすることを心がけています。

決して広いとは言えない空間ですが、料理の音やにおい、お風呂場から漂う石鹸のにおいなど、生活感にあふれる場となっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長、職員は、入居者の方々の日々の暮らしを通じて、様々な視点から一人ひとりの思いの把握を続けている。何気ない会話やふとした表情、行動等から気づきを得ながら、心情や身体状況の変化、行動の理由等についての考察を重ね、情報共有と丁寧な記録がなされている。各担当者が積極的に作成に関わる介護計画にも、課題や目標として本人の重ねる言葉が示され、その人らしさや心身機能維持へのアプローチへと導いている。また、計画に基づくケアプログラムや業務日誌等の記録様式はシステム化されており、視点を明確にするとともに、職員の負担軽減にも一役買っている。業務としての一連の流れは整備、確立されているが、入居者の方々の、その日、その時の思いや喜怒哀楽を受け止め、日々の対応は、細やかな配慮と柔軟性に富んでおり、あくまでもさりげない、暮らしの場所として生活感あふれる空間の中で、「納得・共存・勇気」の理念は深まりを見せている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人設立以来掲げてきた理念「納得・共存・勇気」を、全職員が念頭において実践している。日常生活をご利用者とともに送る上で、かかせない、あたりまえのことだと感じている。	法人理念のもとに、グループホームとしての運営方針を具体的に示している。職員採用時には理念に共感できる人材を求め、新人研修は理念の理解、共有に重きを置いている。理念を追求し、また立ち返る場所としても位置付けながら、実践に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、ゴミ出し等の際、あいさつを交わすなど日常的な交流を持っている。また、地域主催の行事に積極的に参加したり、事業所行事に招待したりなどの交流も持っている。	自治区会の祭り際には実行委員を務めたり、事業所行事を地域へ案内しながら、交流を育んでいる。近隣の保育園児とのふれあいの機会や、中学生の職場体験、ヘルパー養成研修の実習生の受け入れを行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌の中で、認知症や、介護、健康に関する情報を載せ、情報発信を行っている。また、見学に来られた方などには、事業所の説明のみでなく、制度全般についての説明も行うようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常の生活、行事などに加え、事故や苦情についての報告を行い、ご意見を伺うようにしている。それを踏まえ、すぐ実践できるものはすぐ行い、時間がかかるものは検討を続けている。	運営推進会議は、日曜日の午前中に開催されており、家族の参加も多く、協力施設である近隣の老人保健施設からの出席も得ている。入居者や家族からの要望について話し合う機会としても活用されており、地域の方や知見者からも助言をいただきながら、運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方とは、運営推進会議やその他の機会を通じて交流を図っている。また、市の担当者の方々は、疑問な点などについてのアドバイスをいただくことがある。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、行政担当者とは、情報共有や困難事例への対応、不明な点についてアドバイスを受ける等、連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止対象の具体的な行動」について学び、行わないことはもちろんのこと、それ以外でもご利用者の自由な行動を阻害しないことを大切に思っている。夜間以外は施錠せず、ご利用者が出て行かれたら、一緒に付き合うようにしている。	研修計画の中に位置付け、行動制限や抑制について職員間の共通認識を図っている。日中は施錠していない。夜眠れない場合にも無理な睡眠は誘導せず、リビングでゆっくりと過ごしてもらっている。また車椅子に座ったまま過ごしている方はなく、椅子やソファへの移乗がその都度行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待については毎年勉強会を行い、職員全員で、身体的にも精神的にも虐待がないように気を配っている。また、見学・申し込みに来られたご家族の精神面にも注意してお話を聞くようにしている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	北九州市の作成している成年後見人制度のパンフレットを全職員に配布している。現在、利用者の中で後見人制度を活用されている方もおられる。心配されているご家族には制度を紹介し、アドバイスすることもある。	権利擁護に関する制度についての資料を整備し、入居契約時や必要時に説明を行っている。現在、成年後見制度を活用している方もおり、担当する司法書士との連携を図る過程において学ぶ場面も多い。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際はもちろん、改定の際にも十分な説明をおこなっているが、その後不安や疑問が発生したときにはいつでも確認し、説明できるようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外でも、ご利用者、ご家族に、意見や要望をいつでも話していただける様、信頼関係を築くようにしている。また、いただいたご意見・要望にはすぐ対応できるように心がけている。	運営推進会議への参加も多く、会議の中で意見や要望について話し合う機会がある。事業所以外の窓口として、法人としての第三者委員や関係機関を案内している。2ヶ月毎の通信「風のひとりごと」には、入居者の方々の豊かな表情が掲載され、日々の暮らしの様子が伝わってくる。また、毎月、個別の通信も送付しており、家族との関係性を大切にしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングで意見を出せるようにしている。また、日常的に、今、その時の職員の想いにもすぐ対応できるようにしている。それ以外にも、節目節目に個別に話す時間も作っていききたい。	風通しの良い職場環境作りへの取り組みがあり、施設長、主任を中心として、職員の主体性を大切に受け止め、検討、反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性や努力を把握し、働きやすい環境づくりを行っており、各自やりがいを持って働いている。今後はがんばり具合が給与に結びつくような体制作りが課題である。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に当たって制限は設けていない。採用時は、高齢者や介護に対する想いを重要視している。採用後も、職員一人一人が、それぞれの能力と個性を生かして仕事できるように配慮している。	職員の採用にあたっては、理念の共有に向けて共に取り組めることを重視し、年齢や性別による排除は行っていない。また、理念のもとに、職員の個性を活かせるよう配慮している。資格取得に挑戦する職員へ、手作りの資料を作成してサポートする等、チームワークの良さが伝わる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念の実践そのものが、人権教育であると考え、日常的な援助内容に気を配っている。	法人理念や事業所としての方針には、人権尊重やコンプライアンスの視点が含まれており、その共有や実践に向けた取り組みは特筆すべき点である。また、法人として、事業所として、人権尊重に通ずる様々な視点からの研修を行い、共有認識を図っている。	

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な知識・考え方は施設内研修という形で伝えている。職員一人一人の資質向上については、日常的な援助場面において、個々に合わせて指導している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域内にあるグループホームがお互いに運営推進会議に参加し合い、意見交換を行っている。同業者の見学受け入れ、他事業所への見学とともに奨励している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居後しばらくの間は、特に、ご本人さんが困っていること、不安、要望など細かに伺うようにし、さらに、日々の生活の中での雑談、表情などから、口に出さない想いも感じ取るように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込み時、見学時、入居前面接の時から、ご家族が困っておられること等、ゆっくりと、何度も聞ける時間を作るようにしている。入居後の不安についても丁寧に対応するようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られた方には、入居までの期間もお困りにならないよう、各種制度や他サービス情報も含めアドバイスするようにしている。入居決定後は入居後すぐ対応するためのプランを作成し、提示している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護をしているという意識はなく、一緒に生活する中で、ご利用者とお互いに補い合い、「申し訳ない」ではなく「ありがとう」と言い合える関係作りに努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話で近況をお知らせし、ご家族がご利用者のことを考えたり、思い返せるよう、絆を大切に、ご家族にしかできない支援があることを伝えている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外でも、馴染みの人に気軽に来ていただけるよう声をかけたり、職員が同行して、会いたい人に会いに行くなど、関係がとぎれないよう支援している。	家族や知人が来訪した際には、くつろげる時間を提供し、関係性の継続に向けた支援を行っている。また、家族や親戚が入院された際には、お見舞いに同行する等の支援も行っている。	

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	狭いリビングにいつの間にかご利用者が集まりく つろいでおられる。職員は、ご利用者間の人間 関係を把握し、会話の仲介に入ったり、さりげ なく一緒にいるようにしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、新しい施設に入ったり、入院され たりされた方のところへ面会に行ったり、亡く なられたご利用者のご家族に行事の案内や手紙、 写真などをお送りしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用者、ご家族の話聞くだけでなく、生活 の中で見られる表情、言葉、態度などから、ご 利用者の思いや意向を汲み取ることが重視して いる。	日常の暮らしの中で、様々な視点から思いや 意向の把握を続けており、記録には入居者の 方々の言葉や日々の様子等が丁寧に記載され ている。また、職員間での検討や共有が重ねら れていることが、ヒアリングからも十分に確認 できる。センター方式を活用したアセスメント が行われており、半年毎にカンファレンスが行 われている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご家族や入居前のケアマネジャーさんか ら生活歴や暮らし方などの情報をいただくが、 ご本人さんとの日常的な会話から得られる情 報はとて多いと感じている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方のパター ン把握は当然だが、その時々で見せるちょっ とした表情や行動の変化から、身体状況の変 化、気持ちの動きを見逃さないようにしてい る。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映 し、現状に即した介護計画を作成している	最低半年に一度は、ご本人、ご家族を交 えカンファレンスを行いプランを作成してい る。また、状態に変化があったときには随時 カンファレンスを行い、現状に即し柔軟に プランを変更している。	本人の重ねる言葉をニーズとして捉え、日 々の暮らしが反映された、個別性あふれる 介護計画が作成されており、その人らしさ や心身機能維持へのアプローチへと導いて いる。計画に基づいた「ケアプログラム」 から記録への流れが確立されており、視 点を明確にしなが、効果的かつ合理的な システムが構築されている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かし ている	介護計画に基づき、観察点、注意点、実 践すべきことを「ケアプログラム」として 立案し、それに基づいた記録を行うこと で介護計画の見直し等に生かしている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念にとらわれず、その方に必要なことを行うことは、事業所の理念の一つである。最近では、訪問看護事業所や往診医との連携で、入院させたくないというご家族の希望に対応することができた。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービス相談員さんに来てもらい、ご利用者やご家族の話を聞いてもらったり、同一敷地内のマンションの住民の方に非常災害時の応援を頼んだりしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望によりかかりつけ医を決定し、受診同伴するなどして関係を築いている。往診医を利用される方については、24時間相談可能な体制となっている。	入居者、家族の意向によるかかりつけ医とし、必要に応じて受診に同行し、関係性の継続や、適切な医療活用に向けた支援が行われている。また、入居者の方々との馴染みの関係にある訪問看護師により、細やかな観察やケアが行われていることが看護記録からも確認でき、相互に情報の共有が図られている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約を結び、週1回の定期訪問に加え、24時間相談可能な体制をとっている。看護師が把握した情報については、かかりつけ医にも報告してもらい、スムーズな連携と対応がとれている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院に対し情報提供を行い、その後も面会に行き関係が途絶えないようにしている。また、病院でのケース会議にも出席し、入院中の状態や退院後の注意など、直接情報がもらえるようにしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、入居時、カンファレンス時、運営推進会議等で終末期の過ごし方についてご利用者・ご家族と話す機会を多く持っている。また、終末期に具体的にどういうことができるかについて、職員間、訪問看護師、往診医とも話し合いを持っている。	重度化対応・終末期ケア対応指針、及び同意書を整備している。医療関係者との連携を図りながら、本人、家族の意向に寄り添いたいという施設長、職員の意識も高く、家族との話し合いを重ね、方針を共有している。ターミナルケアについての外部研修に参加し、内部伝達が図られている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が対応できるように、定期的に勉強会を開催している。また、マニュアルの見直し、確認も行っている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間想定、夜間想定の実施。その際、同一敷地内のマンションの住民の方にも参加、協力をお願いし、安全に避難できるよう協力体制を作っている。	年2回、昼夜を想定した防災訓練を実施している。入居者全員が参加し、階上の一般住宅からの参加、協力を得ている。近隣に居住する職員も多い。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し、声かけ対応に注意している。一つ一つの動作や行動にも必ず意味や理由があることを意識し、まずはそれを考えて対応するようにしている。	入居者一人ひとりにとっての時間の流れや場所、生活習慣等を大切にしている。また、自己選択や喜怒哀楽を表せる場を大切にしている。法人全体として、またホームとしてプライバシー保護についての研修が行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動販売のパンの購入時、朝の着替え、入浴の支度等、いろいろな場面で行って貰える声かけを実施。自由に喜怒哀楽を表現してもらうことで、ご利用者の本音が見とれるようになった。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望を把握するよう、よく観察することで、その方にあったペースでの対応ができている。業務をこなすことと、介護することとは、全く別物であると日々考え支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前で、ご自分で髪をとかれたり、必要に応じて介助したり、ご自分のお好きな洋服を選んでもらったりと、その人らしさを大切にしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好みを把握し、同じ食材でも調理方法を変えるなどしている。また、調理、配膳、味付け、メニュー作りなど手伝っていただき、職員も一緒に食卓を囲むことで楽しい空間を作っている。	嗜好や習慣、摂食・嚥下状況等を把握し、個別の対応が行われている。また、きざみ食にはせず、圧力鍋を用いて軟らかく調理し食べやすく解す等、細やかな支援が行われている。毎日の手作りおやつや、個別の外食も含め、「食」を楽しむ機会も多い。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の普段の食事量、水分量などを把握し、必要に応じて間食を増やしたり、別のものを食べてもらったりと工夫している。また、定期的に血液検査を行い、栄養状態についても医師に相談している。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	塩入りお茶による起床後のうがいと毎食後の口腔ケアを実施している。口腔内の状態を観察し、必要に応じて訪問歯科医に見てもらおうようにしている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ布パンツで気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。日中の行動や時候を含めた排泄パターンを把握し、適時の誘導、希望への迅速な対応を行っている。	個別の排泄パターンやサインを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。現在、紙おむつを使用している方はなく、職員の気づきや観察力を共有し、個別の対応に努めている成果とも言える。豆乳パインの提供や食材の工夫等により、できる限り自然な排泄となるよう配慮している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用せず、食材や飲み物(豆乳パインを提供)、運動で便秘予防を行っている。食事量や水分量にも注意している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や曜日、時間帯についての希望を伺い、あらかじめ予定表は作っているが、そのときの状況により臨機応変に変えるようにしている。温度やシャンプー等の好みに個別に対応している。	1週間ごとに個別の予定は立てているが、毎日入浴準備を行っているため、その日の希望や状況により、柔軟に対応することができる。湯温や入浴時間等の好みや習慣を把握し、一人ひとりに応じた支援が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠や日中のうたたねなど、睡眠パターンを把握し、快適に休息できる環境を作っている。リビングのソファで人の気配を感じながら眠ることが意外に快適であることがわかった。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳でいつでも情報を見れるようにしている。薬のセッティングから服薬まで何回もチェックする過程を設けている。薬変更の際には必ず記録に残し、変更後の状態変化についても把握するようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の家で過ごすよう、決まった活動スケジュールは設けていない。ご利用者ごとに好みの役割があったり、その場で盛り上がった遊び、各自の好みの外出などを行っている。		

福岡県 風の里 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>近所への買い物、散歩等、自由に好きなときに外出できるように支援している。全員でバスハイクに出かける以外にも、個別にお好きな、又はお好きそうな場所を選び出かけるようにしている。</p>	<p>近隣への散歩やコンビニエンスストアでの買い物、家族との外出等を支援している。また、個別の外出に出掛ける機会もある。プランターでの野菜作りや、近隣の保育園での芋ほりに参加し、収穫の喜びを共に味わっている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方(ご家族が了承してくれればできない方でも)には、ご自分でお金を所持してもらい、ちょっとした買い物を楽しんでいただいている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をかけたい時には自由にかけていただいている。ご自分でかけられない方には職員がかけお替りすることもある。毎月のご家族への手紙に、ご本人さんから一言を添えてもらったりしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>オープンな台所に隣接した食堂兼リビングは、料理の音やにおいで生活感にあふれている。トイレは廊下の両突き当りというわかりやすい場所にあり、戸惑われる方は少ない。</p>	<p>リビングのソファや対面式キッチンのカウンター、大きなテーブル等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所があり、暮らしの場所として、家庭的な居心地の良さがある。浴室は三方から介助できるようになっており、身体状況にあわせた対応が行いやすい。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングに置いたソファが人気で、多くのご利用者が思い思いのくつろがれている。かたくなに自分の居場所を決めておられる方もいれば、気の合った方のそばを選んで座られる方もいる。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の家具はご自分で使いなれたものを持参していただいております。加えてご家族の写真やお好きな韓流スターのポスターを貼るなど、ご自宅での生活を継続していただけるよう支援しています。</p>	<p>住所や名前が表札として掛けられている居室には、個人の暮らしに必要なものが持ち込まれており、生活感にあふれている。訪問当日は、DVDプレイヤーを駆使し、大好きな韓流スターの紹介をしていただきました。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はすべてバリアフリーで、トイレや浴室内の手すりの位置も工夫している。また、居室には表札をつけ、ご自分の部屋を忘れても表札を見ればわかるようにしている。</p>		